

親鸞聖人

去年の莊嚴

光といのち

第144号

一報恩講一

2023年11月3日発行

発行所

真宗大谷派勝善寺

〒299-2214

千葉県南房総市二部1344-2

電話 0470-57-2657

FAX 0470-57-2290

Eメール info@syozenji.or.jp

住職 釋孝昌(井上孝昌)

「堪え忍ぶこと
によつて、怒み
は息む。
これは永遠
の真理である。」

「実にこの世においては、およそ怨みに報いるに怨みを以てせば、ついに怨みの息むことがない。」(『ブッダの真理のことば 感興のことば』岩波文庫)に、題字下は続きます。これは、毎日報道される中東情勢に、聞こえてきた言葉です。

しかし、残念ながら現実とは逆。なんとも痛ましく愚かで悲しい事態であります。一刻も早い終息を願います。

「さるべき業縁のもよおさば、いかなるふるまいもすべし」。

これは親鸞聖人の言葉です。条件次第でどんなことでもしてしまふ人間の愚かさ恐ろしさを言い当てた真理です。今、地球上に暮らす八十億四千五百万人の一人ひとりが、この存在だと仏教は説きます。その人間が、仲間をつくり国をつくり互いが正義を主張し合い、時には妥協し時には争い、怨みが怨みを生んでいる。

「堪え忍ぶ」ことは、仏道修行の一つ。しかし、はたしてそれが人間にできるのか。その努力が修行と言われるが、今までそれを完成したのは、おしゃ力

さま(ブッダ)ただ一人。

親鸞聖人は、念仏が人間を完成させる仏道、他とはまったく異質の仏道を歩まれました。それが浄土真宗です。それは、自分の正義に固執したり「堪え忍ぶ」人間に成るものではありません。念仏が、自分の愚かさ恐ろしさを気づかせ、そこに立つ確固として柔軟な歩みです。

親鸞聖人は、中東情勢を憂慮する私に、「念仏申すことは、この信心をいただいた御恩報謝と心に刻み、世のなか安穩なれ、仏法ひろまれと、お思いください。」と語りかけてくれました。

報恩講

速夜

十一月十七日(金)
十五時～十六時
法話 住職

晨朝

十一月十八日(土)
六時～六時四十分
法話 副住職

日中

十一月十八日(土)
九時三十分～十二時
法話 港区了善寺住職
百々海 真師

講題「終活」

真宗大谷派 勝 善 寺

住 職	井上 孝昌			
副住職	井上 泰之	(候補衆徒 ※次期住職僧侶)		
坊 守	井上 悦子			
衆 徒	鈴木正一郎	※衆徒とは、当寺所属僧侶のこと		
責任役員	井上 孝昌	井上 泰之	田村 晋一	
総 代	田中 昭一	足達 崇	川名 喜昭	
総代理	朝倉 和利	能重 勉	明石 義久	川名 利幸
門徒会員	田村 晋一	足達 崇	黒川 敦子	
推 進 員	鈴木正一郎	関口 昌司	田村 晋一	
	川名 喜昭	田中 昭一	足達 崇	
	黒川 敦子	正木 道雄	渡邊 秀子	
門徒(檀家)	3 0 5 戸			
同朋の会員	寺族・門徒全員			
地区聞法会	八日講十日講 (二部中・下の一部)、中佐久間講			

世 話 人

※太字は新世話人

No.	地 区	氏 名	数
1	久 枝	足達 崇	10
2	市部①	廣嶋 敏雄	7
3	市部②	田中 誠	11
4	竹内	堀海 栄子	4
5	高崎①	前田 正悟	4
6	高崎②	青木 敏夫	5
7	小浦①	明石 圭司	7
8	小浦②	明石 義久	5
9	宮谷合戸	川名 信之	4
10	二部上①	朝倉 和利	9
11	二部上②	三堀 清	10
12	二部上③	朝倉 智	5
13	二部中④	能重 隆	4
14	二部中⑤	田中 昭一	8
15	二部中⑥	狩野 昌也	8
16	二部下⑦	久保田 守	9
17	二部下⑧	能重 勉	6
18	検儀谷	池田 義正	11
19	平群①	高梨 和夫	5
20	平群②	池田 千代枝	6

世話人に所属する門徒 204戸

世話人所属有縁者 12人

個別門徒 101戸

個別有縁者 163人

※数は、所属門徒数

No.	地 区	氏 名	数
21	保 田	長谷川 吉枝	5
22	大帷子	醍醐 祐子	5
23	※2名づつ	醍醐 敏明	
24	交替で	大胡 実	
25		大胡 英一	
26	市井原	川名 三枝子	5
27	江 月	川名 利幸	7
28		未定	
29	大崩	石井 久	6
30	奥山上佐久間	高梨 維夫	4
31	中佐久間①	鈴木 渉	3
32	中佐久間②	重田 和夫	5
33		重田 明美	
34	中佐久間③	田村 徹夫	5
35	中佐久間④	田村 晋一	6
36	下佐久間①	富永 清人	4
37	下佐久間②	金木 美江	2
38	下佐久間③	金木 庸一	4
39		吉田 誠	
40		福原 広美	
41	下佐久間④	中山 郁夫	4
42	下佐久間竜島	正木 道雄	8
43		(代)鈴木正一郎	
44	勝山竜島	鱸居 政男	5

お参りを心よりお待ちしております。

準備の都合がありますので、本堂にお参りされる方はご連絡ください。
世話人所属の方々は世話人に、それ以外の方々は寺にお伝えください。
ズームでお参りされる方は、メールでお申し込みください。

逮夜 11月17日（金）15時～16時 同朋唱和

①正信偈

『真宗大谷派勤行集』（赤本）3～32ページ

②念仏

同97ページ

③和讃「弥陀成仏のこのかたは」から6首

同 98～100ページ

④回向「願以此功德」

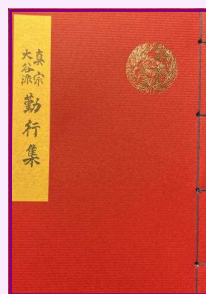
同101ページ

⑤『御俗称御文』拝読

別添

⑥法話

住職



晨朝 11月18日（土）6時～6時40分 同朋唱和

①正信偈

『真宗大谷派勤行集』（赤本）3～32ページ

②念仏

同 97ページ

③和讃「専修のひとをほむるには」から6首

同111～113ページ

④回向「願以此功德」

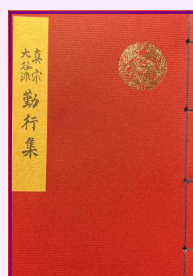
同101ページ

⑤御文「御正忌」拝読

同 62～67ページ

⑥法話

副住職



日中 11月18日（土）9時30分～12時 同朋唱和

①感話

川名 喜昭 氏（釋喜法）

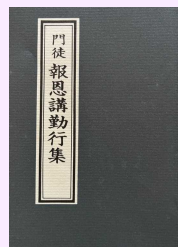
②正信偈

『門徒報恩講勤行集』1～30ページ

③念仏・和讃・五遍返し・回向

同 61～78ページ
(赤い節を誦みます。)
よ

※ズームでお参りされる方で、この本の無い方は、
11月13日までに申し込みください。郵送します。



④法話

講題：「終 活」

了善寺住職

ど ども しん
百々海 真 師

寺に参詣できない方は、下記の報恩講用口座に報恩講志をお振り込みください。

館山信用金庫 店番 005 普通 口座番号 0103547

宗教法人 勝善寺 代表役員 井上孝昌

世話人総会



10月22日(日) 13:30～15:30 初めに正信偈をお勤めしました。

住職挨拶

浄土真宗寺院で最も大切な法要である報恩講は、ご門徒（お檀家）が主催する法要です。

当寺では、【二部上中】【二部下検儀谷平群】【前を除く富山】【鋸南】の四地区が四年に一度当番となり運営されています。

本年は、【二部上中地区】が当番です。

世話人は、できるだけ三座お参りください。そして、ご門徒には、三座の内一座には必ずお参りするよう促してください。

毎日一生懸命に生きている私たちです、自分の関心事に精一杯で、誰とも代われない一回限りの人生を支え支えられ生きている事実を忘れていません。

「南無阿弥陀仏」は、そのことを教える仏さまの呼びかけです。

親鸞聖人が歩まれたこの浄土真宗を確認し聖人の恩徳を讃える法要、それが報恩講です。

この信心を伝え、聞法生活をみな様と共に歩みたい。その一心で住職を勤めております。世話人の皆様、どうぞ宜しくお願いします。

役員会

10月1日(日) 於：庫裏



世話人総会に備え、新設した総代理四人を加え、責任役員・総代・住職・坊守・副住職の十一名で会議しました。

